キャラクター名
星崎 竜衣（ほしざき・りゅうい）

プレイヤー名

シンドローム	ノイマン バロール	ワークス	UGN支部長A	カヴァー	公務員（隈城市役所）
オプショナル		年齢	32	性別	男性
覚醒	無知	衝動	殺戮	初期侵食率	33 %
出自	資産家	経験	仲間の死	邂逅	ビジネス

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値
肉体	0	1	0			1
感覚	1	0	0			1
精神	5	0	0			5
社会	2	0	0			2

HP	27
行動値	7
(非装備時)	7
戦闘移動	12
全力移動	24

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵	1		射撃	2		ＲＣ			交渉		
回避	1		知覚			意志			調達	1	
運転：バイク	2		芸術：			知識：隈城市	1		情報：UGN	1	
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		
運転：			芸術：			知識：			情報：		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
アルテミスの弓（必中の弓相当）	射撃	5r+12		11		
コンボ（通常）【黄金の一矢（フレシュ・ドール）】	射撃	8r+12		20		範囲（選択）（80↑）、侵蝕13
コンボ（100%↑）【黄金の一矢（フレシュ・ドール）】】	射撃	9r+12		23		範囲（選択）、侵蝕13

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

合計装甲：	0	合計回避：	0

所持品	
エンブレム:サラウンドレポート	
アルテミスの弓（必中の弓相当）	
ウエポンケース	
コネ:UGN幹部	
コネ:要人への貸し	

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイタス	消費
遺産継承者	P	N		
神城早月	P 有為	N 隔意		
妻:黒江あかり	P 遺志	N 悔悟		
	P	N		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P: 6	残り財産P： 3

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果：非オーヴァードのエキストラ化								
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果：コスト分のHPで復活								
コンセントレーション:ノイマン	3	2	メジャー					
効果：								
コントロールソート	1	2	メジャー	武器		対決		
効果：射撃を選択。組み合わせた判定は精神で判定								
巨人の斧	3	3	メジャー	武器		対決		
効果：攻撃力+lv*3。ダイス-2								
神機妙算	1	3	メジャー		範囲（選択）		80↑	
効果：対象を範囲（選択）に変更。シーンlv回								
紡ぎの魔眼	3	1	オート	至近	自身	自動		
効果：自分の判定直前に使用。判定ダイス+lv。ラウンド1回								
時の棺	1	10	オート	視界	単体	自動	100↑	
効果：相手が判定を行う前に使用。その判定を失敗させる。シナリオ1回								
ディメンションゲート	★	3	メジャー	至近		自動		
効果：自分が知っている場所にゲート設置。								
プロファイル	★		メジャー	至近		自動		
効果：物品を観察し、対象の人物像を炙り出す。								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								
効果：								

容姿:切れ長の目に縁無し眼鏡。普段着はスーツ
属性:墜ちたエリート
性格:基本的に偉そう。笑わない
好きなもの:データ、確率
嫌いなもの:部下の死

資産家・星崎宗一郎の次男として誕生。
星崎家はスポンサーとしてUGNとの関わりが深く、竜衣も幼い頃からUGN研究施設に出入り。気がついた時にはオーヴァードとして覚醒していた。
その後、UGNの育成施設を首席で卒業し、欧州に留学。現地で遺跡調査に同行した際に、遺産「アルテミスの弓」を取得。
遺産を引っ提げ帰国した後はエリート街道まっしぐら。更に箔を付ける目的で隈城支部の支部長に抜擢。
着任後も目覚ましい活躍を見せ、また、支部のトップエージェント・黒江あかりを伴侶に迎える等、公私ともに充実した日々を送っていた…。

だが、5年前のある日。
妻・黒江あかりがFHセルに捕らわれる。単身で乗り込んだ彼は、救出の過程で彼女を誤射、遺産の副作用で暴走してしまう。
我に返った彼の目に映ったのは、完膚なきまでに破壊されたセルの残骸と、変わり果てた伴侶の姿だった…。

彼は事件の翌日から変わらず支部の指揮を執り、周囲を驚かせたが、普段の彼からは考えられないようなミスがしばらくは散見されたとか。
（クルーデル氏と出会ったのはその頃）

そして事件を境に彼から笑顔が消えた。元々無愛想だったので気づく者は少なかったが。
また、彼は部下の死に対して過敏になり、従来以上に作戦の細部に拘るようになった。周りからは慎重に過ぎると捉えられ、臆病者と陰口を叩く者も多い。